

現代文芸コース 春季大学院進学説明会



「現代文芸コース」とは？



- 現代文芸コースは、博士後期課程をもたない修士課程のみからなる点を特色とする。
- 現代の文芸の諸相を幅広い視野から学際的に横断的に学べるようなカリキュラムが用意され、文学を含む文化現象への多様なアプローチ方法にふれることができる。

例) 世界文学やジェンダー研究の視点から人間の文化的営みを総合的に考察することによって、現代の文化・文学の多層性をよりよく理解するための学問的方法や批評的思考を獲得することができる。

- 本コースの授業の対象は、小説、詩、批評、翻訳論、メディア論など多岐に及ぶ。この学問的環境のなかで各学生が、アカデミックな視点・学術的観点を身に着け、様々な学問的枠組みや方法を尊重しつつ、同時に自由に柔軟に、みずからの問題意識を深化発展させ、新たな時代に対応できる豊かなでしなやかな知性と想像力を養うことを目指す。

現代文芸コース教員紹介 (1/2)



マヌエル・アスアハラモ先生

専門分野：比較文学と翻訳論、
世界文学論、
世界におけるラテンアメリカ文学、
日本文学の流通



市川真人先生

専門分野：主として日本の20世紀以降の
文学と、その環境としての
紙メディアから電子媒体まで



岩川ありさ先生

専門分野：フェミニズム、
クィア批評、
トラウマ研究



小野正嗣先生

専門分野：現代フランス語圏文学、
世界文学論、文芸創作



菊池有希先生

専門分野：日本の近現代詩を中心とする
比較文学

現代文芸コース教員紹介 (2/2)



草野慶子先生

専門分野：20世紀ロシア文学、
比較文学



松永美穂先生

専門分野：現代ドイツ文学・翻訳論



小沼純一先生

専門分野：現代フランス語圏
文学、音楽文化論、
音楽・文芸批評



堀江敏幸先生

専門分野：創作（小説・批評・エッセイ）



マヌエル・アスアハアラモ先生



専門分野：比較文学と翻訳論、世界文学論、
世界におけるラテンアメリカ文学、日本文学の流通

(2023年度春学期 現代文芸演習)

副題	20・21世紀の世界文学研究とポストコロニアル文学論
授業概要	この講義では、世界文学論(World Literature Studies)におけるポストコロニアリズムが課題として残っている現象について考えて行く。『オリエンタリズム』(1978)の著者エドワード・サイドが『イスラム報道——ニュースはいかにつくられるか』(1994)などで示したように、テレビやラジオなどといった現代のメディアを通して<世界>が表象されている以上、その<世界像>が、自国の文化空間で優越的な立場から君臨する様々な言説によって影響せざるを得なくなっているという。こうして、アメリカから見た中東だけではなく、例えばヨーロッパから見たアフリカや中国から見たアメリカなど、他国の文化を同化し得ない<他者>のものとする傾向があり、中立性をなくす危険が常に伴っている。一方では、21世紀が明けてから文学研究において一層盛んに議論されている世界文学論は、グローバル時代における自国文学と他国文学の関係について横断かつ学際的に考える試みとして生まれてきたのである。しかし、2010年にAamir Muftiが発表した論考“Orientalism and the Institution of World Literatures”の中ですでに議論しているように、現在、世界文学について考えるためには、ポストコロニアリズムが残してくれた課題を忘れてはいけないという。 したがって、この講義では、世界文学論を成立させた比較文学者のデヴィッド・ダムロシュ、パスカル・カザノヴァ、フランコ・モレッティなどが提案した世界文学論の基礎知識を得た上で、エドワード・サイドをはじめ、ガヤトリ・C・スピヴァク、ホミ・K・バーバ、アーミル・マフティの論考も取り入れる。 この講義では上述の枠組みを用いながら、植民者と被植民者という不平等な関係の中で生まれる世界文学作品について考える。授業の初めに、上記の理論的な枠組みを説明してから、毎回世界各地で書かれたポスト・コロニアル文学の作品を受講生と読み解いていきたい。
到達目標	受講者に文学作品をポストコロニアル的に読むノウハウを養っていききたい。そして、世界各地からのポストコロニアル文学の魅力を感じると共に、今もなお世界で必要とされているトランスカルチャー的な理解とは何かを考える授業にしたい。

(2023年度秋学期 現代文芸演習)

副題	「グローバル・イングリッシュ」、翻訳研究、そして世界文学
授業概要	本講義で近年の翻訳研究におけるグローバル・イングリッシュGlobal Englishの問題を受講生たちと考えていきたい。具体的に、Lawrence Venutiの『翻訳のスクランダル』<i>The Scandal of Translation</i>、水村美苗の『日本語が亡びる時:英語の世紀の中で』、Aamir Muftiの<i>Forget English!: Orientalisms and World Literatures</i>、Rebecca Walcottの『生まれつき翻訳:世界文学時代の現代小説』<i>Born Translated: The Contemporary Novel in an Age of World Literature</i>、そしてMichael Emmerichの<i>The Tale of Genji: Translation, Canonization, and World Literature</i>からの抜粋をゆっくりと精読し、批評的に考える。これらの著書にある文学理論を把握しながら、翻訳の諸問題を念頭に置きながら文学作品の解読も実践する。
到達目標	受講生たちに海外の文学作品を翻訳研究の視点から読み解くノウハウを養っていききたい。そして、世界各地からの文学を日本語や、その他の言語で読むにあたって、トランスカルチャー的な理解とは何かを考えるようになってほしい。



市川真人先生



専門分野：主として日本の20世紀以降の文学と、その環境としての紙メディアから電子媒体まで

(2023年度春・秋学期 現代文芸演習)

授業概要	実践的な批評の執筆をめぐるプラクティスを行なう。テキストと批評の関係はもとより、批評の／としてのメディアや、その射程についてなど、複合的な要素を踏まえて書くこととは何かを実践に結びつけてゆく。 ※対面ハイフレックスで行いますが、最大で7回、Moodleを利用したのオンラインでの授業を行います。
到達目標	批評と研究の差異をふまえた、各自の目標とする進路にのっとったテキストの完成
事前・事後 学習内容	学期冒頭に定める発表順に応じて、発表者は発表内容を事前に提出・共有し、発表者以外の者は、発表者がとりあげるテキスト等を読んでおくこと。
授業計画	毎回、発表者を決めて実際の（広義の）批評文を執筆し、輪読のうえ講評および討議を行なう。各回の内容については、履修登録後にMoodleを参照してください。
成績評価	発表、執筆物、出席状況を複合して評価する。



岩川ありさ先生



専門分野：フェミニズム、クィア批評、トラウマ研究

(2023年度春学期 現代文芸演習)

副題	戦争と文学
授業概要	この演習では、『セレクション 戦争と文学6 イマジネーションの戦争』（集英社文庫、ヘリテージシリーズ、2019年）を読み、戦争と文学について考える。
到達目標	(1)戦争と文学について書かれた短編小説を分析的に読むことができる。 (2)テキストを正確に読み、具体例を示しながら、ディスカッションを行うことができるようになる。

(2023年度秋学期 現代文芸演習)

副題	戦争と文学
授業概要	この演習では、『セレクション 戦争と文学6 イマジネーションの戦争』（集英社文庫、ヘリテージシリーズ、2019年）、石原吉郎の詩やエッセイ、藤野可織の小説「戦争」を読み、戦争と文学について考える。
到達目標	(1)戦争と文学について書かれた短編小説を分析的に読むことができる。 (2)テキストを正確に読み、具体例を示しながら、ディスカッションを行うことができるようになる。

事前・事後 学習内容 (春・秋)	・ 担当者は、本文で言及されている歴史的な背景について関連書籍や文献を調べた上で、議論を喚起する形で発表できるように準備すること。 ・ 受講者は、テキストを正確に読み、自分が気になった点については調べ、問題意識を持ちながら議論に参加できるようにすること。
------------------------	---



小野正嗣先生



専門分野：現代フランス語圏文学、世界文学論、
文芸創作

(2023年度春・秋学期 現代文芸演習)

副題	短篇小説を精読する
授業概要	# 基本的に対面授業です。 主に海外の短篇小説を、それがどのように構成されているのかという観点から精読します。 基本的には翻訳を通じて読みますが、英語圏の作品の場合は英語で読む場合もあります。 毎回、担当者を決めて、その発表を受けて全員で議論します。 英語で読む場合、指定された部分の訳文を作ることが要求される場合があります。その場合は、訳文についても全員で議論します。
到達目標	1) 短篇小説がどのように構成されているのかを客観的に分析できる。 2) 理解した内容を、各自の問題意識につなげる。 3) 他の受講生の見解について建設的なフィードバックを行なう。
事前・事後 学習の内容	指定された課題を必ず読んできてください。また、課題ではありませんが、日本や海外を問わず文学作品（とくに小説）を日頃から読むように心がけてください。
授業計画	優れた短篇小説とされている作品はたくさんあります。本演習では、12作品を選び、毎回、ひとつの作品を取り上げて、それがどのように書かれているのか、構造や表現に注目してていねいに分析します。 初回の授業ではイントロダクションとして授業の目的について説明します。 授業担当者が用意したリストのなかから全員で12作品を選び、担当者を決めます。 2回目以降は、毎回、担当者による発表を受けて、全員でディスカッションを行ないます。 ただし、受講者の人数や習熟度に応じて、また公衆衛生上の要因によって、授業のスケジュールや内容が変更されることがあります。



WASEDA University

シラバス詳細照会


シラバス詳細照会

菊池有希先生



専門分野：日本の近現代詩を中心とする比較文学

(2023年度春学期 現代文芸演習)

副題	塚本邦雄『水葬物語』を読む
授業概要	本演習では、戦後を代表する前衛短歌の歌人・塚本邦雄の第一歌集『水葬物語』（1951年）を精読する。塚本の詩的世界は、古今東西の文学、芸術、宗教、文化の深い教養に裏打ちされているが、『水葬物語』もその例に漏れず、先行する世界のテクストを〈翻訳〉・吸収して構成された一篇の〈物語－詩〉となっている。本演習では、菱川善夫による『水葬物語』の評釈も参考にしながら、間テクスト性に留意しつつ、一首一首の歌の意味、各パート及び全体の構成の意味について考察したことを受講者に発表してもらい、全体の討議において理解を深めてゆく。
到達目標	・評釈本を参考にして、塚本邦雄の詩的世界の一端を理解する。 ・現代短歌を自分のことばで評釈し、読み解くことができるようになる。

(2023年度秋学期 現代文芸演習)

副題	宮沢賢治『春と修羅』を読む
授業概要	本演習では、宮沢賢治の詩集『春と修羅』（1924年）を精読する。『春と修羅』は、賢治の生前唯一刊行された詩集で、妹の死に深く関わる彼岸のイメージや宇宙的感覚が東北方言や詩人固有の語法によって表現されたその独特な作品世界は、海外の文学者をも惹きつけ、英語を始めとする諸外国語にその一部が翻訳され、世界文学として読まれている。本演習では、『春と修羅』の評釈本や先行研究、また必要に応じて複数ある英訳をも参照しながら、各詩篇ないし『春と修羅』の作品世界全体について調査・考察したことを受講者に発表してもらい、全体の討議を通して理解を深めてゆく。
到達目標	・評釈本、先行研究、英訳などを参照しながら、宮沢賢治の詩的世界の一端を理解する。 ・日本の近代詩を自分のことばで評釈し、読み解くことができるようになる。

事前・事後 学習内容 (春・秋)	発表前には特に周到な準備が要求される。また、討議の後、自身の議論をよりよいものに仕上げてゆくことが望まれる。自身の発表担当回でなくても次週に扱われる作品を事前によく読み、考えを温めておくこと。（予習時間：60分）
------------------------	---



草野慶子先生



専門分野：20世紀ロシア文学、比較文学

(2023年度春学期 現代文芸講義1)

副題	現代文芸研究における動物の主題：松浦理英子の『犬身』を読む
授業概要	現代のアニマル・スタディーズ、あるいは現代思想における動物/動物性の主題をめぐる議論と関連させつつ、松浦理英子の『犬身』（2007）を読み、考察し、批評する。 1) まずは『犬身』そのものを精読し、ディスカッションを行う 2) すでにある本作に関する書評や批評を読み、その考察を行う 3) その上で、上記学問領域の知見との接続を目指す。
到達目標	文学作品を学術的、さらには学際的に読み、論じる能力の獲得
事前・事後 学習内容	事前には、指定された文献の精読、コメントの準備。事後には、授業内で示された関連文献に自らアクセスし、理解を着実なものとするのが求められる。

(2023年度秋学期 現代文芸講義2)

副題	松浦理英子の『裏ヴァージョン』と『最愛の子ども』を読む
授業概要	松浦理英子の『裏ヴァージョン』（2000）そして『最愛の子ども』（2017）を読み、考察する。作者自身が述べている通り、この2作は緊密につながっています。 1) まずは両作品を精読する 2) すでにある両作品に関する書評や批評、論文を読む 3) 女性のエクリチュール、手紙とフィクション、少女性といったテーマのもとに両作品を改めて読解するの順序で進行します。
到達目標	文学作品を学術的に読み、批評する能力の獲得
事前・事後 学習内容	事前には、指定された作品、文献を精読し、コメントを準備すること。 事後には、授業中に示された関連文献に自らアクセスし、理解や考察を深めることが求められます。



小沼純一先生



専門分野：現代フランス語圏文学、
音楽文化論、音楽・文芸批評

(2023年度春・秋学期 現代文芸演習)

授業概要	実際に批評をおこなう心身があり、そのかたちとしての「批評文」がある。その双方を考えてゆく。自らの生活のなかで、さまざまな批評的实践が「自然」化することをめざす。 たとえば石をなげて、その波紋がどう生じるか。出席者は水であり波紋であり、石は作品や教員のことばである。 そのインタラクティブなありようを毎回到に生かしたい。
到達目標	自らの生活のなかで、さまざまな批評的实践が「自然」化することをめざす。
授業計画	発表とコメントが中心となります。
教科書	特になし。
参考文献	随時指示する。
成績評価	参加度が反映します。
事前・事後 学習内容	演習で用いるテキストについて読み、思考し、コメントができるようにしてください。
備考	自ら文章を書き、参加者に読んでもらい、講評する。 自分が発表するだけではなく、他者のものを読むことに意味がある。 そのため、出席は重視する。



松永美穂先生



専門分野：現代ドイツ文学・翻訳論

(2023年度春学期 現代文芸演習)

副題	海外における現代日本語作家の受容
授業概要	近年、多和田葉子や柳美里の作品が英訳されて全米図書賞を受賞するなど、現代日本語作家の作品に注目が集まっている。村上春樹の作品が世界でベストセラーとなる状況が15年近く続いたあとで、現在はむしろ女性作家の作品が盛んに受け入れられている印象もある。日本語文学はもはや単なるエキゾチックな文学ではなく、グローバルな状況のなかで確固たる地位を占める一ジャンルとして、世界文学のなかにも地歩を占めているのだろうか。どのような作家のどんな作品が翻訳され、どのように評価されているのか、調査・検討を行う。
到達目標	現代日本語文学の海外における受容を考える際に、翻訳者の存在や、出版のシステム、書評や文学賞の役割についても目配りし、出版を取り巻くグローバルな状況について考察する。

(2023年度秋学期 現代文芸演習)

副題	1960年から90年までのノーベル文学賞について考える
授業概要	ノーベル文学賞は世界で一番注目される文学賞ともいえるだろう。日本でも毎年発表の時期になると関連の報道が増えてくる。しかし、「誰が賞を獲るか」についての一過性の関心は高まっても、賞の選考のシステムや、これまでの賞の出し方について、きちんと報じられることは少ない。本演習ではこれまで数回にわたって、ノーベル文学賞の歴史を30年毎に区切りながら、世界情勢と受賞者の傾向などについて考察してきた。今年度は冷戦期から東欧での民主化要求の盛り上がりという流れのなかで、どのような文学に注目が集まったのか、みていきたい。また、それらの作家たちの日本での受容についても検討する。
到達目標	第二次世界大戦後のノーベル文学賞が、多様化する世界における「世界文学」のあり方にどのように関与してきたのか、自分たちなりの調査や考察を行う。

専門分野：創作（小説・批評・エッセイ）

（2023年度春学期 現代文芸演習）

副題	第1次世界大戦と20世紀文学―島崎藤村『エトランゼエ』精読
授業概要	島崎藤村（1872-1943）は、1913年から1916年までフランスに滞在しています。帰国を余儀なくされたのは、第1次世界大戦が勃発したためですが、滞在先のパリでの見聞を日本の読者に伝える通信をまとめた散文集のなかから、『エトランゼエ 仏蘭西旅行者の群』（大正11年、春陽堂）に焦点を当て、戦乱との関わりや前後の作品との相関関係を探ります。
到達目標	島崎藤村の仕事のなかで、戦乱時のフランス滞在がどのような意味を持ち、どのような形で同時代の文学性を獲得していく糧となったかを理解する。
事前・事後 学習内容	演習前半は、履修者の専門領域、研究主題、興味関心に応じた基調報告・発表を行います。担当回のレジュメ作成と履修者への事前共有を前提をしますので、十分な準備が求められます。

（2023年度秋学期 現代文芸演習）

副題	島崎藤村の小品を読む
授業概要	現代文芸演習1-1で精読した『エトランゼエ』には、外国文学・文化の素養が色濃く現れています。渡仏前に刊行された『新片町にて』（明治42年）、『後の新片町にて』（大正2年）、そして帰国後にまとめられた『飯倉だより』（大正11年）には、滞仏中の藤村の興味関心のありようを示す小品（スケッチ）が多く収められており、『エトランゼエ』の世界を逆照射するものとなっていますが、この演習ではとくに文芸・芸術一般について語られた散文に焦点を絞り、世界文学とのゆるやかな接続を試みます。
到達目標	藤村における世界文学への関心と、小品（スケッチ）という方法、および「通信」「便り」との親近性を理解する。
事前・事後 学習内容	演習前半は、履修者の専門領域、研究主題、興味関心に応じた基調報告・発表を行います。担当回のレジュメ作成と履修者への事前共有を前提をしますので、十分な準備が求められます。

過去の入試問題

早稲田大学入学センターの以下のサイトで過去3年分の問題の閲覧が可能です。

https://www.waseda.jp/inst/admission/graduate/past_test/

(大学院入試情報→過去の入試問題→該当年度の文学研究科 修士課程)

The screenshot shows the Waseda University Admissions Center website. The header includes the university logo, "Admissions Center 早稲田大学 入学センター", and navigation links like "MyWaseda.jp", "お問い合わせ", and "サイトマップ". A "Quick Link" dropdown is on the left. The main menu has categories: "ニュース News", "イベント Events", "学部入試情報 For Undergraduates", "大学院入試情報 For Graduates", and "その他の入試情報". The "大学院入試情報 For Graduates" menu is expanded, showing a list of links. The link "過去の入試問題" (Past Entrance Exam Questions) is circled in orange. A yellow box labeled "入学試験情報" (Entrance Exam Information) has an arrow pointing to the circled link. Below the menu, the breadcrumb path is "ホーム > 大学院入試情報 > 過去の入試問題". The main content area is titled "For Graduates" and "大学院入試情報". At the bottom, there is a "過去の入試問題" button and a large "Past Test" banner.

Quick Link

MyWaseda.jp お問い合わせ サイトマップ

寄付 アクセス データ集 検索 Language

Admissions Center
早稲田大学 入学センター

ニュース News イベント Events 学部入試情報 For Undergraduates 大学院入試情報 For Graduates その他の入試情報

過去の入試問題

入学試験情報

過去の入試問題

Past Test

よくあるご質問（1/2）



◇冬期入試はおこなわれないのですか。

〔答〕 9月入試のみの予定です。

◇これまで横断的研究に馴染みがないのですが、外部から入学した場合、大学院の授業に適応できるでしょうか。

〔答〕 指導する側として出身校による違いは感じられません。副指導員制度もあるため、馴染みやすいのではないのでしょうか。外部から入学した学生数は少なくありません。学生さん同士が情報交換しながら、問題なく授業についていけるとと思います。また、留学生や外部からの進学者のみなさんが豊かな学術環境を作ってくださっていると感じています。

◇現代文芸コースに進学するにあたり、参考となる教科書をいくつか教えてほしいのですが。

〔答〕 教科書として特に共通したものではありませんが、強いて言えば、理論書を読むより、文学史を読みつつ、古典とされる文学作品に広く親しんでほしいと思います。また修士の授業についてお知りになりたい場合は、HPの教員紹介の頁に各教員が担当する科目のシラバスが公開されていますので、そちらを参考になさってください。

よくあるご質問（2/2）

◇入学後、修士論文の研究テーマが変わっても大丈夫ですか。

[答] 問題はないです。むしろ、入学後に学び、新たな分野に触れることで、軸はぶれなくても、研究内容が変化する事のほうが多いと思います。

◇大学院を事前に訪問することはできないですか。

[答] 入試前に先生に直接会いに来ることは、入試の公正性という観点から避けてほしいのですが、雰囲気を感じるために助手や講師が在室する現代文芸コース室を訪問することは可能です。

戸山キャンパス 33号館 7階 704号室

開室時間：月～金 12:00～16:00



ご静聴ありがとうございました！

